



始まりました!!!新しい通学に向けての取組!

「あれ!? 子どもたちが歩いて登校してるぞ?」冬休み期間中、こう思われた地域の皆さんもいらっしゃったのではないのでしょうか。以前よりお伝えしておりますように、次年度からの檜葉小学校の開校と校舎の移転に伴い、通学方法が本来の形へと戻っていくわけですが、**中学校では自転車通学と徒歩通学の実証通学を実施したのです!!!** ちなみに、基本的に檜葉中学校から半径2km未満は徒歩、2km以上は自転車やスクールバスとなっており、今回は1・2年生34名中18名が徒歩、3名が自転車で通学。「結構、気持ちいいよ!!!」と寒い中でも颯爽と走り抜けていく姿が印象的でした。

先日、こども園の5歳児と小学生の保護者を対象とした通学アンケートも実施し、**檜葉小学校から半径1km圏内の徒歩通学想定エリアに住む子どもたち36名のうち、24名が徒歩での通学を選択することが分かりました。** 徒歩通学の大きなメリットとしては、心身の成長が挙げられています。片道20分の通学は意外とよい運動になります。また、日々、町の四季を感じたり、地域住民の皆さんとふれあったりすることも、学校では得難い学びとなります。**子どもたちが安全・安心に登下校ができるよう地域のご協力が不可欠です!!!** 以前もお願いした、犬の散歩をしながら、花に水をやりながら、ごみを出しながらといった「ながら見守りボランティア」にぜひご協力ください!!! 子どもたちの姿が町のいたるところで見られ、地域の皆さんと交流が生まれるすてきな檜葉町へとさらに一歩前進しそうです。



中学校の先生方が自転車の安全を確認したり、道路で立哨活動するなどをして、安心・安全の確保に努めていました!!!

こども議会で子どもたち目線の提案をしました。

「本屋さんがほしい」「100均がほしい」からスタートした6年生の授業でしたが、初の試みとして町勢振興計画を活用した授業を複数回、教育委員会と政策企画課で企画し、実施しました。すると、次のような子どもらしい素晴らしい提案が!!! 子どもたちの発想の柔軟さには驚くばかりです。檜葉の未来を創る子どもたち目線での提案が実現される日も近いかもしれません!!!

- 檜葉町の「映えスポット」をまとめて、SNSで発信し、観光客を増やす。(地域コミュニティ分野)
- 「先生の卵」である大学生や専門学校生などを呼んで、塾や習い事教室を開いてもらう。(教育・文化分野)
- 日常的な運動でもゲットできるポイントを集めて、プレゼントがもらえるイベントをする。(スポーツ分野)
- お年寄りや体が不自由な人を対象としたウーバーイーツのような宅配サービスをする。(福祉分野)
- 公務員が副業をできるようにしたり、ロボットを活用した農業を進めたりする。(産業振興分野)
- 登下校路など、安全・安心な道にするため、街灯を多く設置する。(生活・環境基盤分野)

小中のつながりを強め、教科担任制を導入します。

最近、ニュースで聞くことも多くなった「教科担任制」。保護者や地域の皆様の小中学校時代を思い返していただくと、小学校は担任の先生がすべての授業をして、中学校では教科の先生が授業をするという姿がイメージできるのではないのでしょうか。

文部科学省では、「新しい時代の初等中等教育の在り方」を議論した結果、来年度より、小学校高学年での教科担任制の導入を決定しました。しかし、檜葉町は子どもの数が少なく、全ての学年が単学級です。そうした中で、子どもたちが多様な教員と関わり、ブロック単位での指導を充実させるため、次年度からは各ブロックで、担任間の教科指導を実施する予定です。例えば5年生の担任が5年生と6年生の国語を指導し、6年生の担任が5年生と6年生の算数を指導するといった感じます。

また、中一ギャップ解消と小中連携の一層の推進ため、中学校の先生方による小学校6年生への教科指導も実施します。例えば小学校の理科の発展実験で中学の理科の先生が特別な実験をするといったイメージです。教育委員会では国の動向を踏まえながら、小中学校と協力して、より教育効果の高い学習形態を展開していきます!!!

小学校における教科担任制の導入形態

次年度実施!!!

教科担任制導入の趣旨・ねらい

- 教材研究の深化等により、高度な学習を含め、教科指導の専門性を持った教師が多様な教材を活用してより熟練した指導を行うことが可能となり、授業の質が向上。児童の学習内容の理解度・定着度の向上と学びの高度化を図る。
- 教師の持ちコマ数の軽減や授業準備の効率化により、学校の教育活動の充実や教師の負担軽減に資する。
- 複数教師(学級担任・専科教員)による多面的な児童理解を通じた児童の心の安定に資する。
- 小・中学校間の連携による小学校から中学校への円滑な接続(中1ギャップの解消等)を図る。

教員の指導力・児童の学力向上の観点
教員の働き方改革の観点
多面的な指導・児童理解の観点
中1ギャップ対策の観点

出典：文部科学省

Q&A

Q：数学検定などを学校などで実施してほしいです。

A：現在、中学校が漢字検定と英語検定の準会場となっており、希望する児童生徒に対しては、町が検定料の全額を補助しています。ご依頼のあった数学検定・算数検定の他にも、歴史検定、プログラミング検定、理科技能検定など、子どもたちを対象とした様々な検定があり、一定数の希望者がいれば準会場として認定してもらえます。しかし、補助の予算や開催時期なども関係してくるので、小中学校をはじめ、関係機関と協議して、検討したいと思います。

【編集後記】

○ 12月26日(日)と27日(月)に小学生を対象とした天神岬での宿泊体験活動を実施し、1年生から6年生まで40名の子どもたちが参加しました。「はじめてのお泊りで不安です」「偏食があるので心配です」など、保護者の方が心配なさっている家庭もありましたが、子どもたちからは微塵も感じることなく、楽しんでいたようでした。「家でたくさん話を聞いて、チャレンジしたことが伝わりました」「遅くなった気がします」など、成長も感じられたようです。これからも子どもたちの成長につながる教育活動を展開していきたいと思っております(文責：檜葉町教育委員会 猿渡 智衛)